

研究プロジェクト名

東アジアにおける国際協調的歴史教育システムの構築に関する政治教育学的研究

Politico-educational Research on the Construction of the Cooperative System of History Teaching in East Asia



大学院教育発達科学研究科・助教授

近 藤 孝 弘
Takahiro Kondo



こんどう たかひろ プロフィール

1986年 東京大学教養学部教養学科国際関係論 卒業
1988年 東京大学大学院教育学研究科 修士課程 修了
1992年 東京大学大学院教育学研究科 博士課程 単位取得退学
1993年 東京大学大学院教育学研究科より課程博士(教育学)

研究経歴

1991年 日本学術振興会特別研究員
1992年 東京学芸大学海外子女教育センター専任講師
1996年 名古屋大学教育学部助教授
1998年 日本学術振興会特定国派遣研究員(ウィーン大学)
2000年 名古屋大学大学院教育発達科学研究科助教授
2003年 アレクサンダー・フォン・フンボルト財団研究員(ボンダム大学)

研究分野

欧州および東アジアの国民国家の形成・変容過程における歴史政策についての研究

受賞歴、レクチャーシップなど

1990年 毎日二一世紀賞
1994年 日本比較教育学会平塚賞(大賞)
1999年 東畑記念賞

下図の左のように、従来、歴史認識をめぐる対立は、日本と近隣諸国との間に存在するものと暗黙のうちに考えられてきた。こうしたフレームワークには2つの問題がある。

第1に、この枠組みから導かれる日本が歴史政策を改めるべきだとする主張は、たしかに正当と考えられるものの、実現の目処がたたないこと。第2に、そもそもそれは東アジア各国の内部に歴史理解をめぐる政治的対立が存在していることを見逃しがちな点で、認識としても不正確な面があるという点である。

それゆえ本研究においては、右のように、まずは各国に存在する歴史理解と結び付いた政治的対立までを視野におさめるところから、東アジアの歴史認識問題の構造に迫りたい。この作業によって、実現性の高い歴史政策上の提案を行う可能性が開かれよう。

「1つの頂点に通じる別々の道」というEU諸国の歴史教育論で使用される比喩が、本研究を導いてくれるものと期待される。これは、目指すのは「統一欧州の歴史教育」であっても、各国に異なる政治状況が存在する以上、地域全体で同一の政策を進めることによって共通目標に到達することはできず、各国において異なる適切な歴史政策が推進されなければならない、という考え方である。

東アジアにおいても、歴史認識をめぐる対立を地域全体として克服するためには、各国で異なる内容の政策が推進されなければならないだろう。そして具体的に、それはどのようなものであり、それらはいかにして東アジア全体として整合的でありうるか—そうであることによって各国で実際に遂行可能となるか—を明らかにすることが、研究の焦点を形成することになる。

なお、この研究プロジェクトは歴史認識問題の解決だけを目的に据えるものではない。そもそも、このような問題が成立し、しかも長年にわたって解決の目処がたたない最大の理由は、日本をはじめとする東アジア諸国における政治教育とその学の未発展なところに原因があると考えられる。対外的な緊張関係によって国民統合を図るという近代の政治教育が、いまだに革新されていないこと、つまり一定の国家的独立がすでに達成されたにもかかわらず、古い思考と制度が残存し、国民間の協力を促す新しい政治教育への脱皮が行なわれていないことが問題である。

本研究は、歴史認識という具体的な対象に取り組むことを通じて、現代世界にふさわしい政治教育と政治教育学の基礎を東アジアに構築しようと試みるものである。

私たちは一体いつまで歴史認識問題に煩わされるのであろうか？

このような感覚は多くの人々によって共有されているものと思われる。確かに、1982年に大陸への「進出」か「侵略」かをめぐって国際教科書問題が起きて以来、状況はあまり改善されていないように見える。そして、こうした閉塞感の背後で、日本政府・日系企業の東アジアにおける行動が制約される状態が続いていることも間違いない。状況を打開するためには、まずは日本の学校やマスメディアで伝達されている歴史理解をより反省的

なものにすることが求められようが、それができないのである。

本研究プロジェクトは、以上のような認識に立った上で、もう一度東アジアにおける歴史認識問題が政治的にどのように構成されているのかを捉え直し、そこから国民レベルでの信頼関係を築くための歴史教育政策を改めて構想しようとするものである。

そのためには、歴史認識問題を捉える枠組みをより精緻なものとしてから始める必要があると考えられる。

